

2025年度
(令和7年度)

紋別市における景気動向調査
＜第1四半期＞

報 告 書

紋別商工会議所

目 次

I. 調 査 要 領

- 1. 調査時点及び調査対象期間 1
- 2. 調査対象 1
- 3. 回収状況 1

II. 概 況

- 1. 全体の動き 2
 - (1) 今期の業況 2
 - (2) 部会別の動向 3
- 2. 今期の動向
 - (1) 今期の売上高・生産高 6
 - (2) 今期の採算 7
 - (3) 今期の資金繰り 8
 - (4) 今期の在庫水準 9
 - (5) 今期の借入金の金利水準 10
 - (6) 設備投資の実施状況 10
- 3. 来期の見通し
 - (1) 来期の業況見通し 11
 - (2) 来期の売上高・生産高見通し 11
 - (3) 来期の資金繰り見通し 12

III. 各 指 標

- 1. 各指標 12

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 2025年8月8日

(2)調査対象期間 2025年4月～6月期の実績および2025年7月～9月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	14社	46.7%
水産業部会	30社	15社	50.0%
機械工業部会	30社	12社	40.0%
建設業部会	30社	24社	80.0%
観光・サービス業+諸業部会	30社	21社	70.0%
合計	150社	86社	57.3%

(注1) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示します。

(注2) 各項目の数値は、端数処理（四捨五入）の関係上、合計が100.0%にならない場合があります。

Ⅱ. 概 況

－業況はマイナスのまま停滞。来期も若干悪化の見込み－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2025(令和7)年4月～6月)の全業種と各部会におけるの平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では▲21.1**と前年同期(R6.4～6月)の▲14.3より**6.8ポイントの悪化**となりました。各部会における前年同期との比較は以下の通りです。

	前年同期 (R6.4～6月)	今期 (R7.4～6月)	増減幅
商業+食品業部会	▲41.7	▲42.9	▲1.2(悪化)
水産業部会	▲16.7	▲21.1	▲4.4(悪化)
機械工業部会	▲5.5	▲33.4	▲27.9(悪化)
建設業部会	▲34.8	▲12.5	22.3(回復)
観光・サービス業+諸業部会	20.0	▲9.5	▲29.5(悪化)

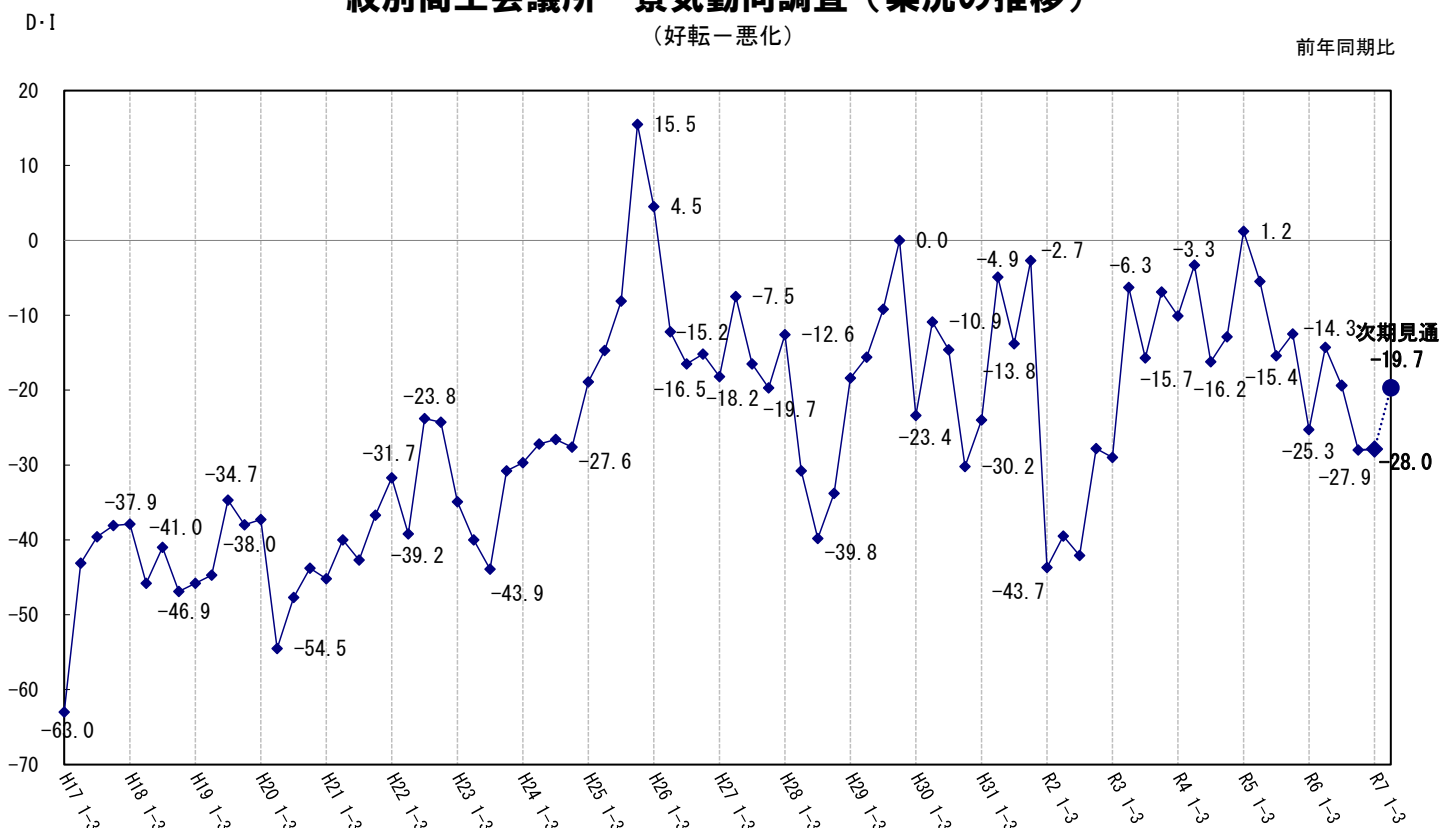
今回の調査では、前年同期と比べ、建設業が大幅な「回復」、機械工業部会、観光・サービス業+諸業部会が大幅な「悪化」となりました。観光・サービス業において前年同期は、新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられてから初めての歓迎会やゴールデンウィークを迎え、その影響から、20.0というプラスの値となっていました。今期の調査ではそれも落ち着き、▲9.5という値になっています。

来期(2025年7月～9月)の業況判断DIは▲23.9(今期比)と2.8ポイント悪化の見通しとなっています。

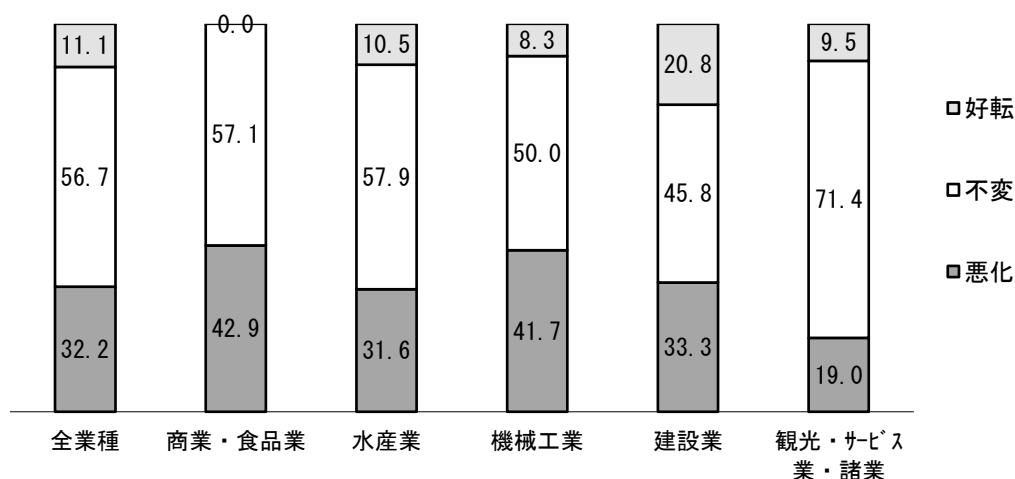
紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)

前年同期比



今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「原材料・材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」を訴える声が多くなっています。

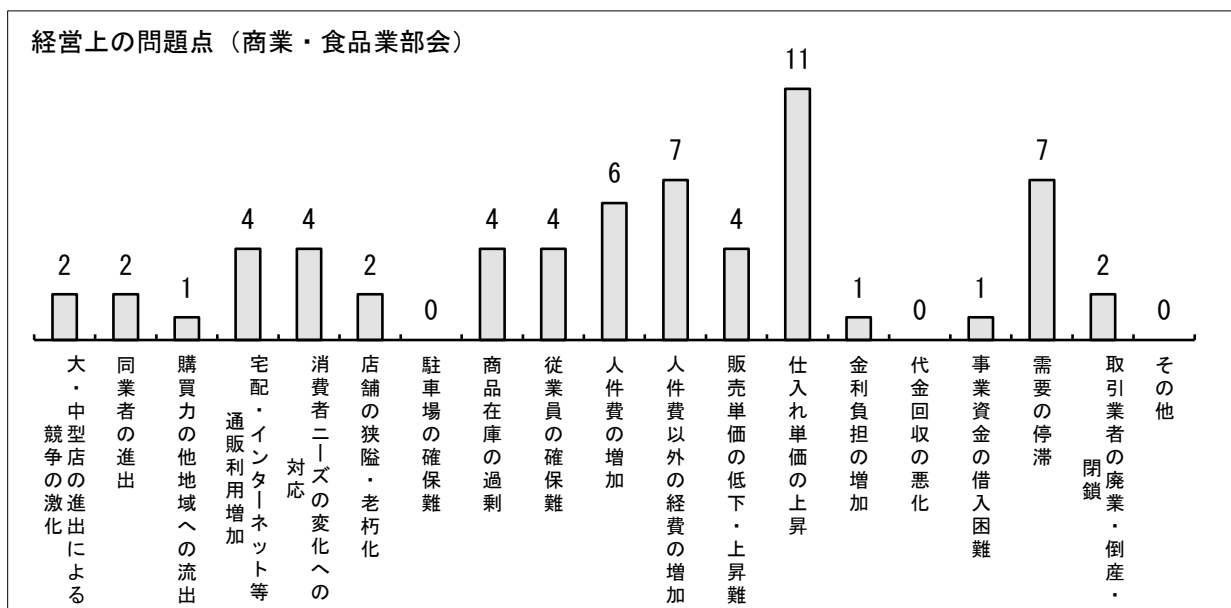
■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲42.9（前年DI値▲41.7、来期見通し▲50.0）〕

業況DI値（前年同期比）は、1.2ポイントの悪化となりました。「仕入れ単価の上昇」と「需要の停滞」が課題として挙げられており、商品の仕入価格が高止まりする一方、消費者の購買意欲が伸び悩んでおり、販売数量の確保が難しい状況が続いています。こうしたコスト増と需要低迷の二重負担により、多くの事業所が業況の悪化を感じている模様です。来期の見通しは▲50.0とさらに悪化する見通しです。経営上の問題点は、前述に加え、「経費の増加」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

・海外同業者の進出、価格変動が激しい。（金属販売）

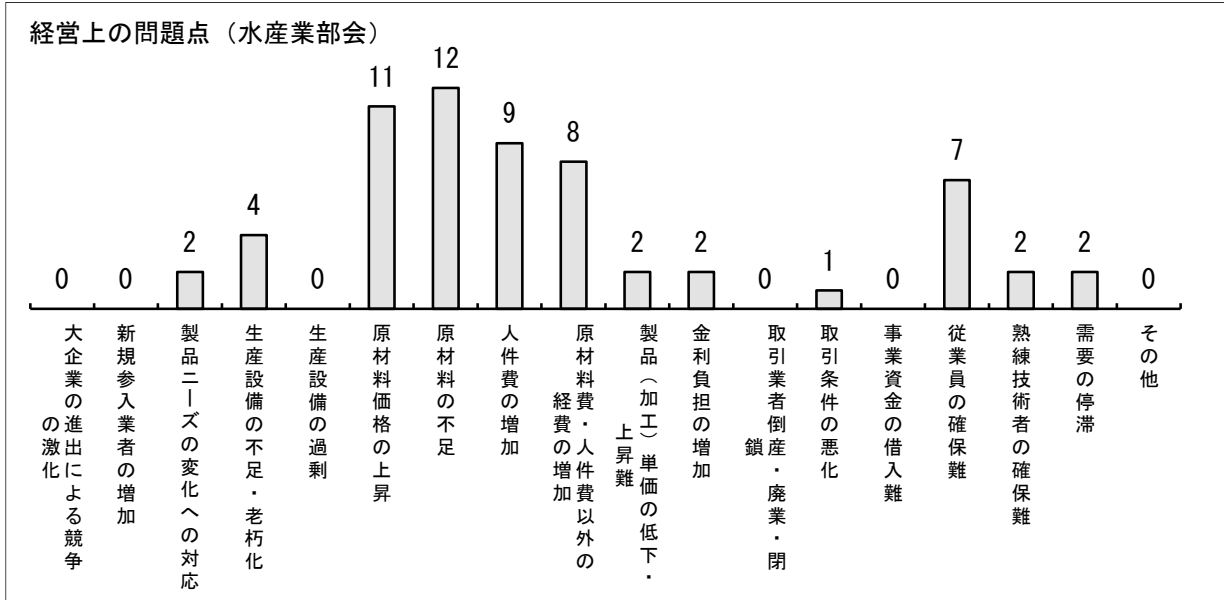


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲21.1（前年DI値▲16.7、来期見通し▲29.4）〕

業況判断DI値（前年同期比）は4.4ポイントの悪化となりました。問題点の多くは、「原材料価格の上昇」や「原材料の不足」といった原材料に関するものと人件費の増加や従業員不足などの雇用面の課題が中心となっています。これらは長期化・慢性化しており、業況が大きく回復しにくい要因となっています。来期の見通しについては、水産業が最盛期を迎える時期であるものの、DI値は▲29.4と悪化が予測されており、依然として厳しい状況が続く見通しです。

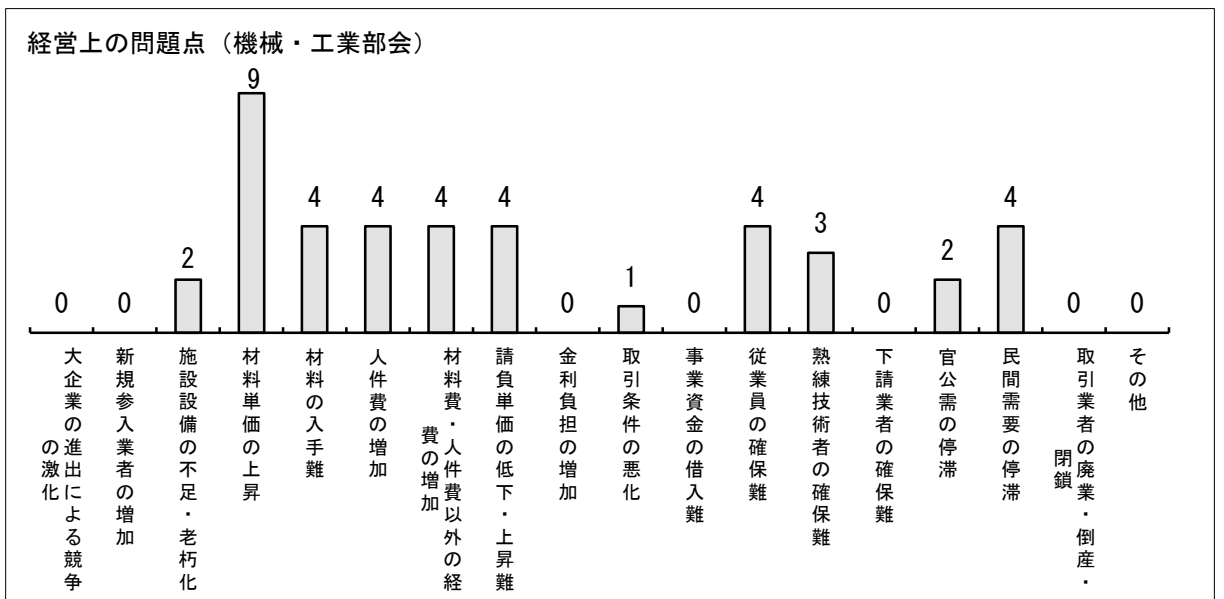
《業界の問題点等》

- ・事業の補助制度の拡充をお願いしたい。（水産食料品製造業）



【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲33.3（前年DI値▲5.5、来期見通し▲50.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年から27.8ポイントの悪化となりました。部会全体を通じて好調とする回答はほとんど見られず、問題点としては「材料単価の上昇」が突出して多く挙げられています。加えて、受注の停滞など、需要面の弱さを指摘する声も見られ、コスト増と需要停滞の双方が業況を押し下げる要因となっています。来期の見通しは▲50.0とさらに悪化が予測されており、厳しい経営環境が続く見込みです。

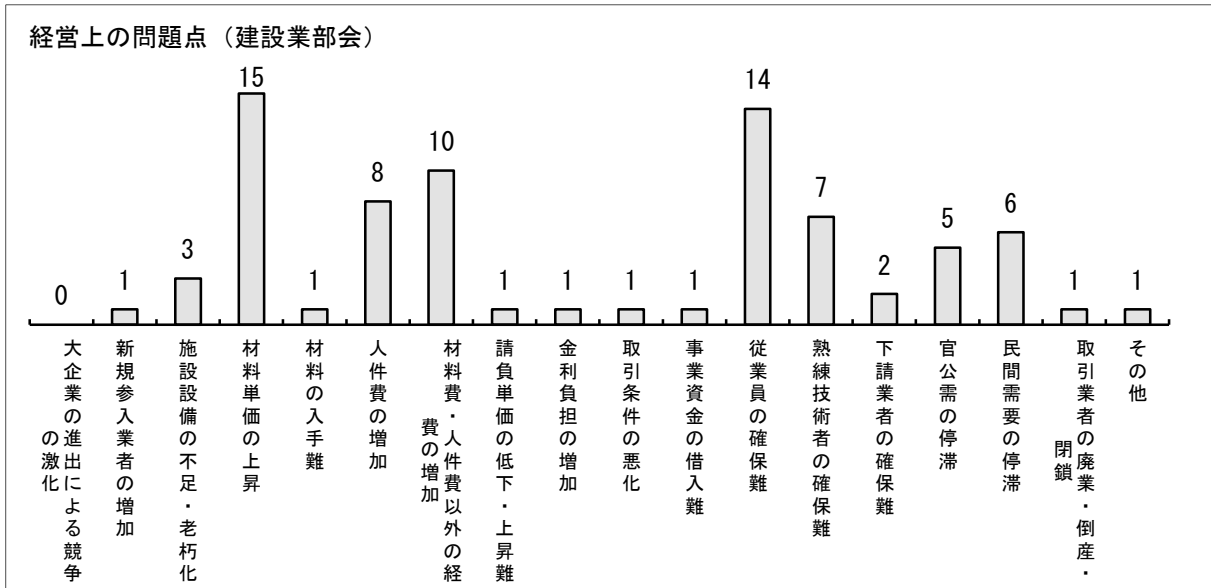


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲12.5（前年DI値▲34.8、来期見通し0.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年から22.3ポイントと大幅な回復を示しました。しかし一方で、経営上の問題点としては「材料単価の上昇」が依然として突出して多く寄せられており、これに加えて、「従業員の確保難」や人件費を含む「経費の増加」など、慢性的な課題が続いています。来期の見通しは0.0と、さらに改善が期待されるものの、「官公需の停滞」や「民間需要の停滞」など、需要面の弱さを指摘する声もあり、大幅な回復にはならない見通しです。

《業界の問題点等》

- ・ 人手不足、冬期間の仕事不足（土木工事）
- ・ 人手不足が一番の問題（管工事）

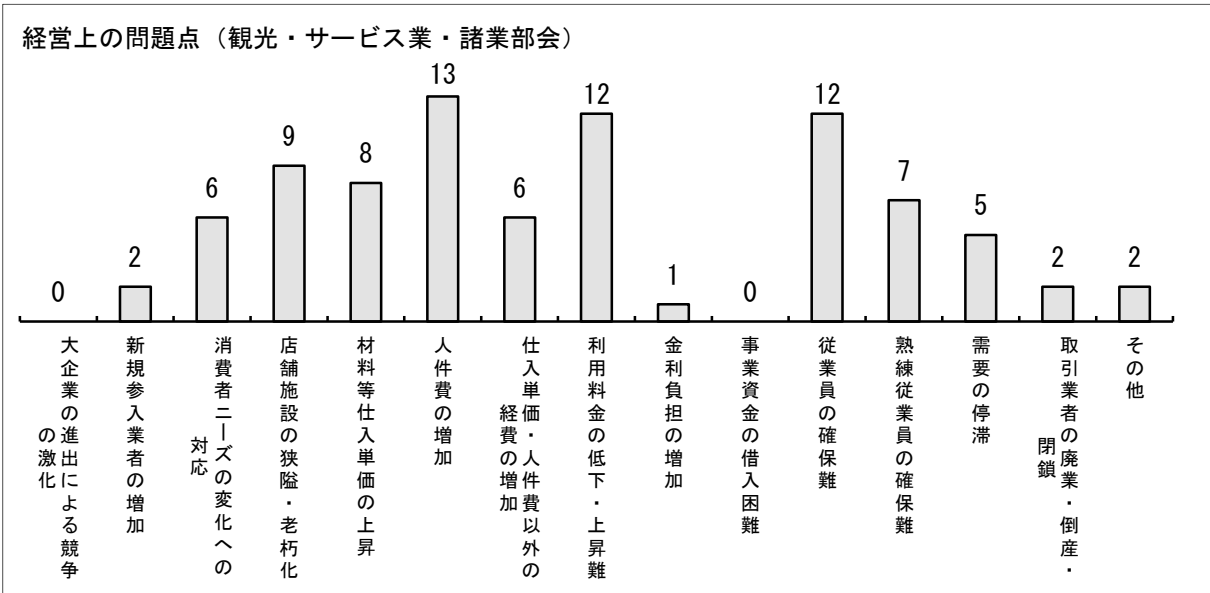


【観光サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲9.5（前年DI値20.0、来期見通し▲9.5）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、29.5ポイントの大幅な悪化となりました。前年同期は、新型コロナウイルスの5類移行後初めて迎えた歓迎会シーズンやゴールデンウィークの需要増が追い風となり、DI値が20.0と大きくプラスに転じていました。しかし今期は、その反動減が大きく影響し、再びマイナスへと転じています。来期も▲9.5と、同程度の水準で推移する見通しです。経営上の問題点としては、「人件費の増加」や「従業員の確保難」を挙げる事業者が多く、深刻な労働力不足が続いています。また、「利用料金の低下・上昇難」など、価格転嫁の難しさを訴える声も多く聞かれ、コスト増を十分に販売価格へ反映できないことが収益を圧迫している状況がうかがえます。

《業界の問題点等》

- ・ 会社の利益が上がらないのに、給料を上げなければならない（貨物運送業）
- ・ 材料等の仕入れ単価の上昇が厳しい。（飲食業）
- ・ 一歩も二歩も先を行く対策をしていかなければ、業界として低迷し続けると思う。人材確保はもはや田舎では無理なのではと思う今日この頃です。（旅客運送業）
- ・ 市に観光客が増えていると感じているが、観光客へのPR不足を実感しているため、今後、SNS等を活用していこうと考えている。（スナック・バー）



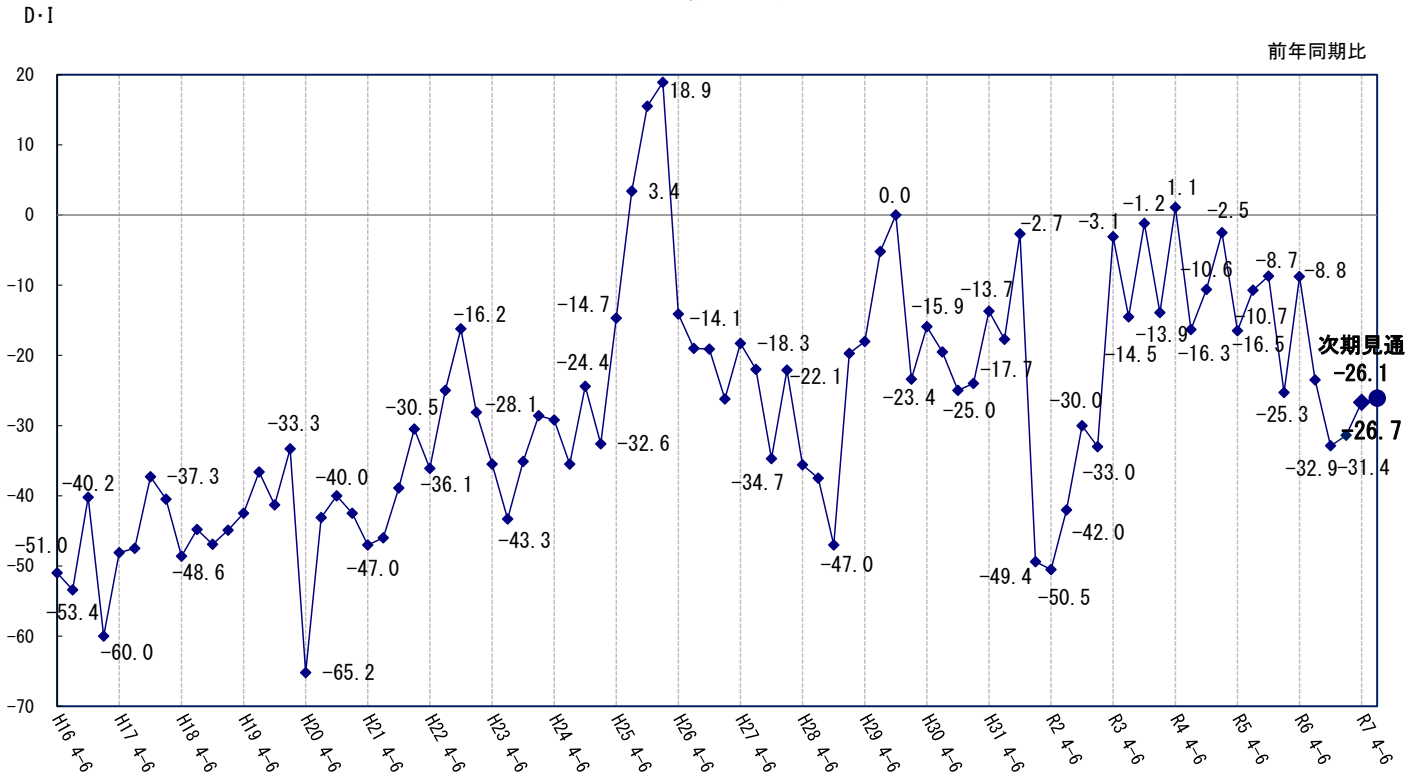
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

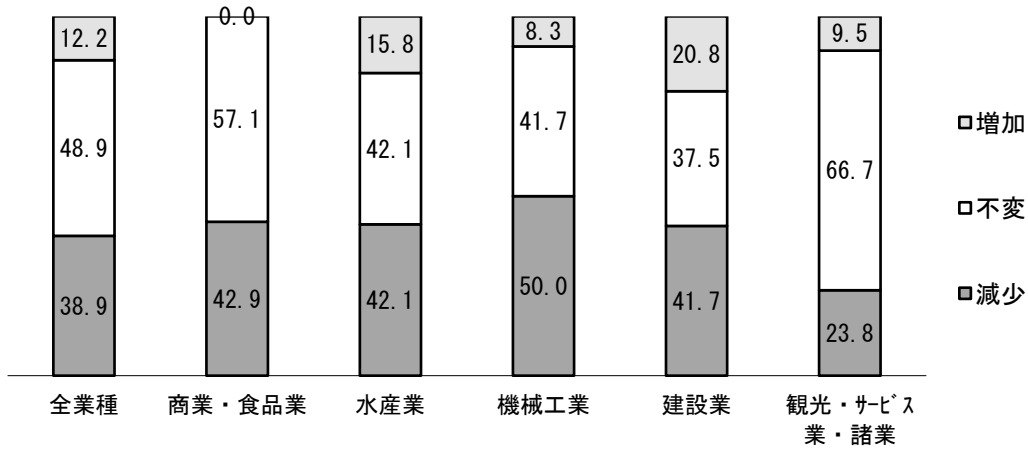
【前年同期比】（令和6（2024）年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値▲26.7〔前年同期（令和6年4～6月期▲8.8）より17.9ポイント悪化〕

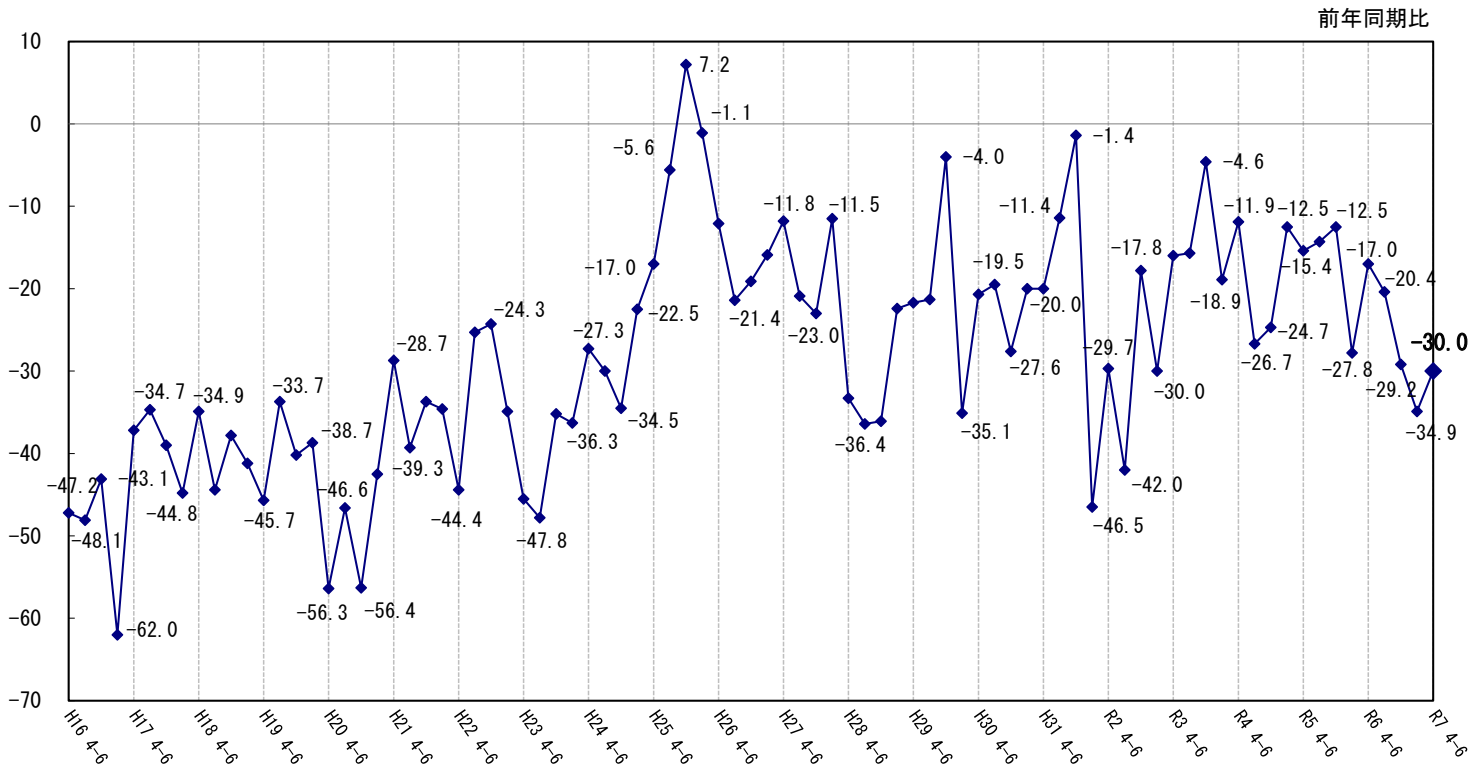
[部会別DI値] 商業・食品業〔前年▲33.3→▲42.9〕、水産業〔前年0.0→▲26.3〕
 機械工業〔前年5.6→▲41.7〕、建設業〔前年▲34.8→▲20.9〕
 観光・サービス業〔前年15.0→▲14.3〕

(2) 今期の採算

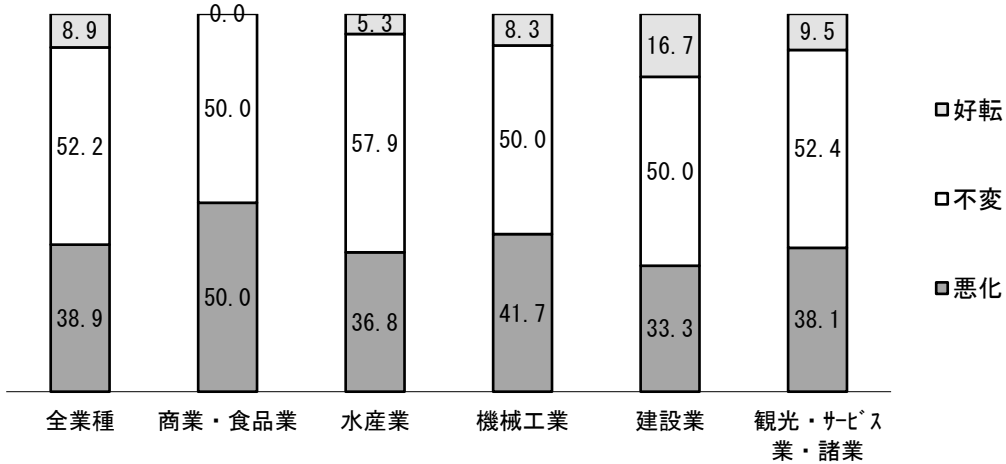
【前年同期比】（令和6（2024）年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字＝赤字）



今期の採算（前年同期比）



全業種平均でDI値▲30.0〔前年同期（令和6年4～6月期▲17.1）より12.9ポイント悪化〕

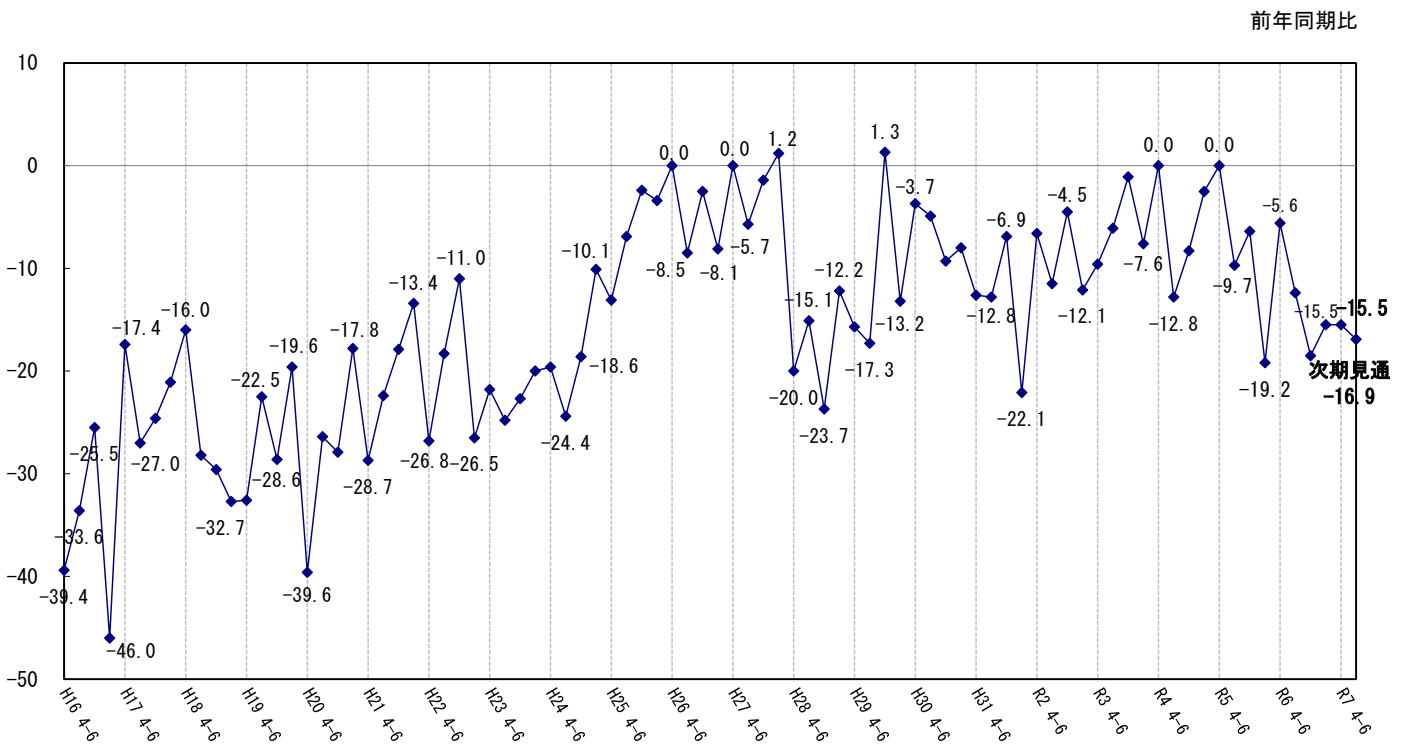
[部会別DI値] 商業・食品業〔前年▲41.7→▲50.0〕、水産業〔前年▲20.0→▲31.6〕
 機械工業〔前年▲16.6→▲33.4〕、建設業〔前年▲21.8→▲16.6〕
 観光・サービス業〔前年5.0→▲28.6〕

(3) 今期の資金繰り

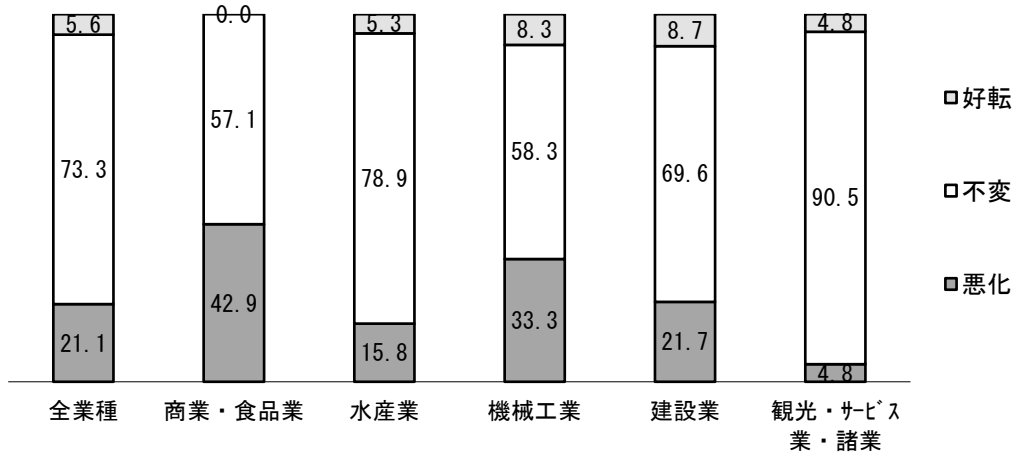
【前年同期比】（令和6（2024）年4月～6月期の水準と比較した今期の資金繰り）

資金繰り推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）



今期の資金繰り（前年同期比）



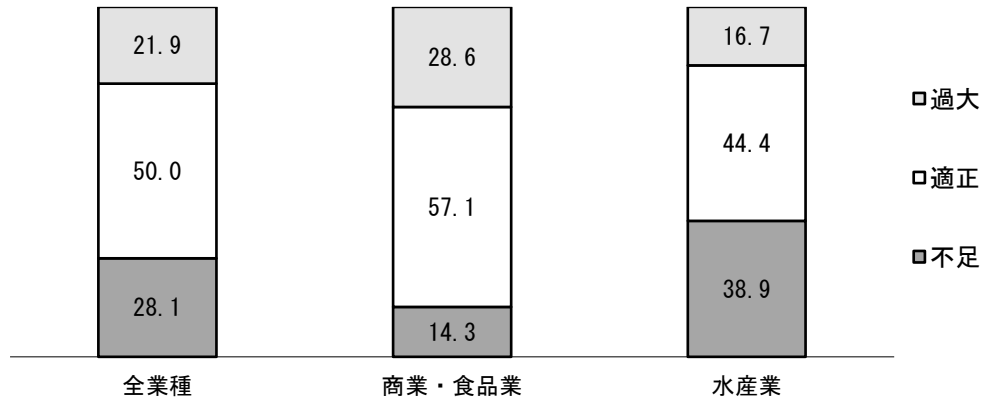
全業種平均でDI値 ▲15.5〔前年同期（令和6年4～6月期▲5.6）より9.9ポイント悪化〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年0.0→▲42.9〕、水産業〔前年0.0→▲10.5〕
 機械工業〔前年▲22.2→▲25.0〕、建設業〔前年▲13.1→▲13.0〕
 観光・サービス業〔前年10.0→0.0〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（令和6（2024）年4月～6月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

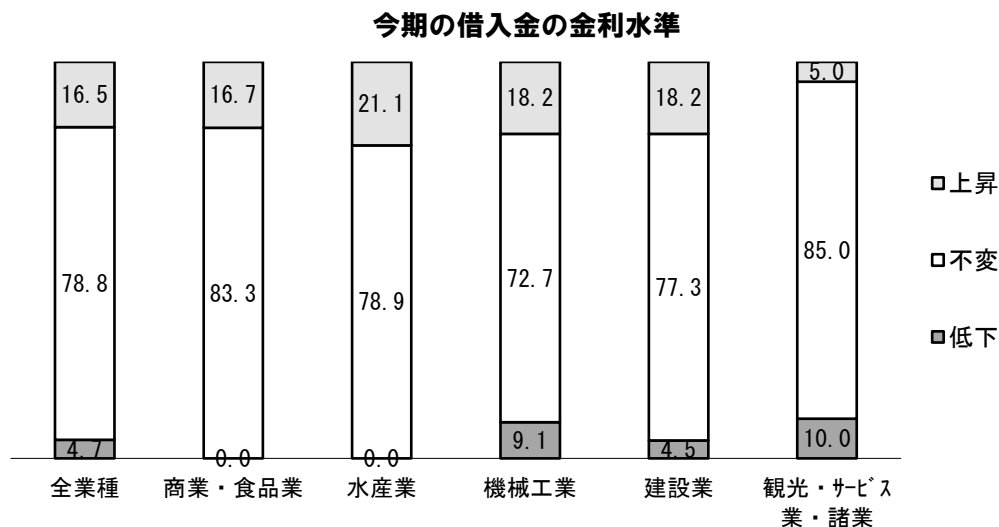


全業種平均でDI値▲6.2〔前年同期（令和6年4～6月期▲3.0）より3.2ポイント不足傾向〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年8.4→14.3〕、水産業〔前年▲5.5→▲22.2〕

(5) 今期の借入金の金利水準

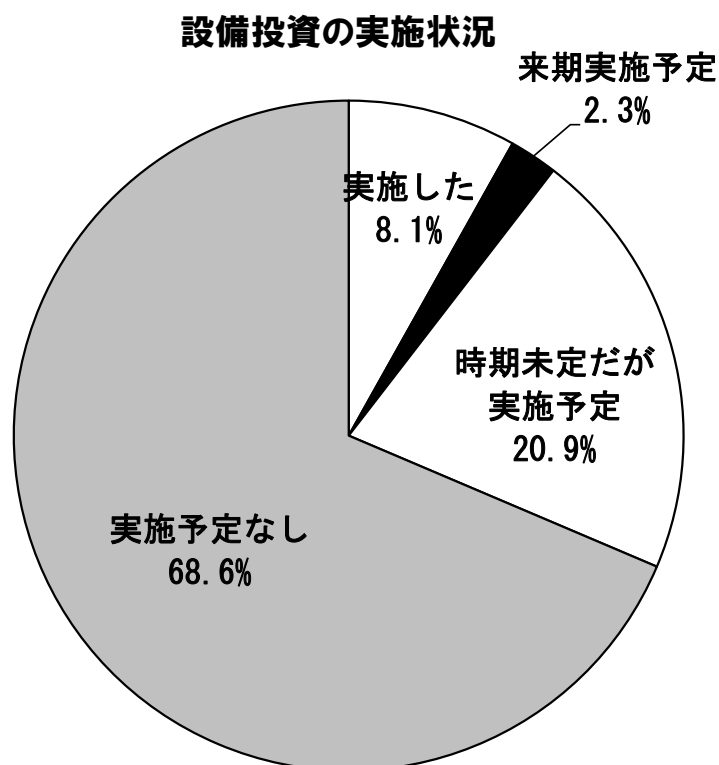
【前年同期比】（令和6（2024）年4月～6月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均でDI値11.8。商業食品業16.7、水産業21.1、機械工業9.1、建設業13.6、観光サービス業▲5.0。

(6) 設備投資の実施状況

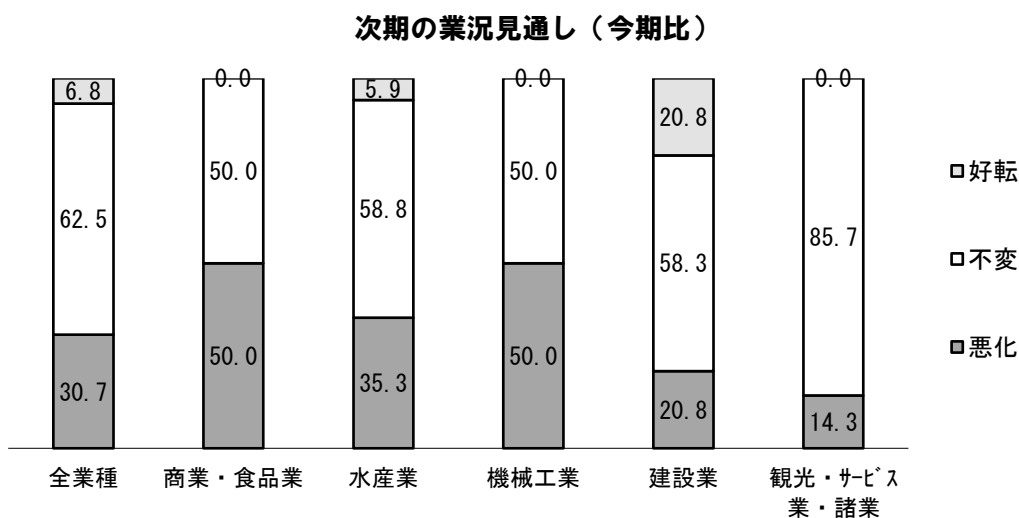
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

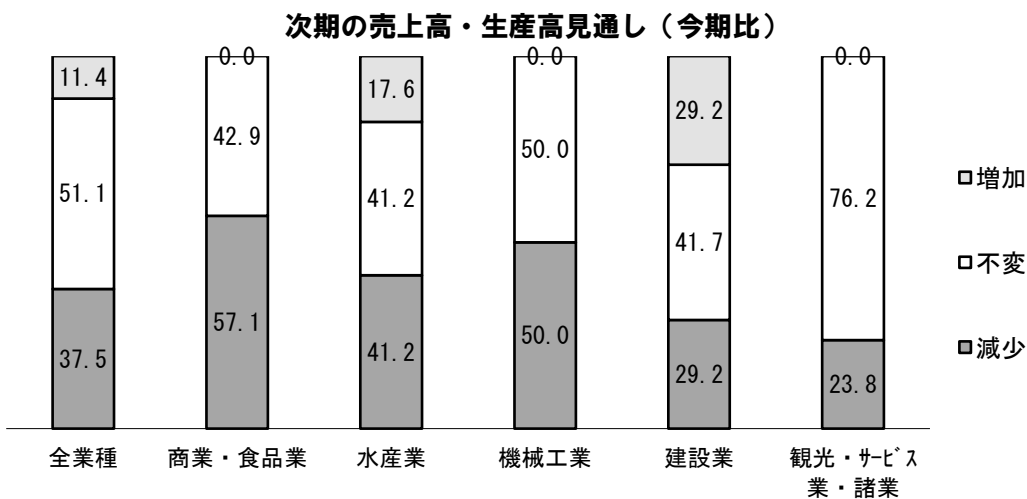
【今期比】（令和7（2025）年4月～6月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値▲23.9 [今期の業況（前年同期比▲21.1）より 2.8 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

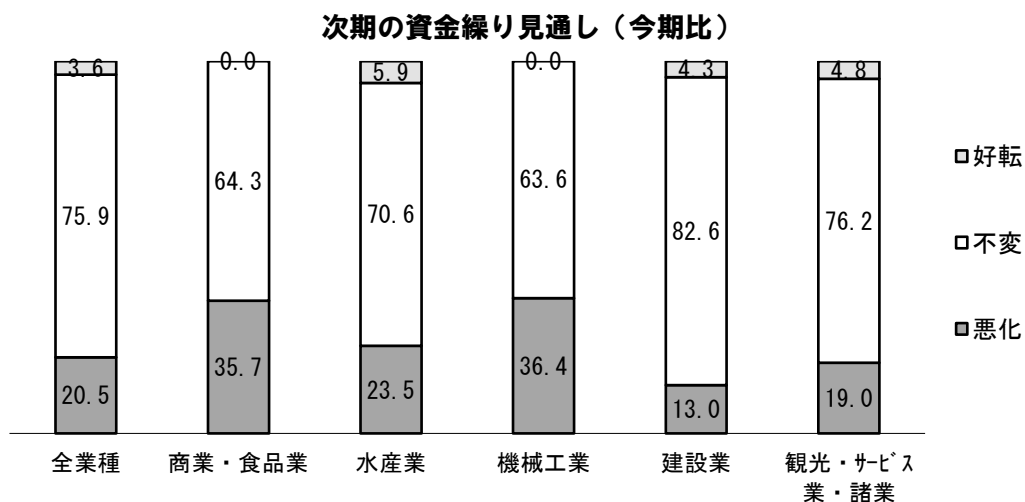
【今期比】（令和7（2025）年4月～6月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値▲26.1 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲26.7）より 0.6 ポイント回復の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（令和7（2025）年4月～6月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均DI値▲16.9〔今期の資金繰り（前年同期比▲15.6）より1.3ポイント悪化の見通し〕

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲21.1	▲42.9	▲21.1	▲33.4	▲12.5	▲9.5
	来期見通し	▲23.9	▲50.0	▲29.4	▲50.0	0.0	▲14.3
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲26.7	▲42.9	▲26.3	▲41.7	▲20.9	▲14.3
	来期見通し	▲26.1	▲57.1	▲23.6	▲50.0	0.0	▲23.8
在庫 D・I	今期実績	▲6.2	14.3	▲22.2	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲30.0	▲50.0	▲31.6	▲33.4	▲16.6	▲28.6
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲15.5	▲42.9	▲10.5	▲25.0	▲13.0	0.0
	来期見通し	▲16.9	▲35.7	▲17.6	▲36.4	▲8.7	▲14.2
借入金 金利水準 D・I	今期実績	11.8	16.7	21.1	9.1	13.6	▲5.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。